

頁	行	誤	正
25	下から5行目	3.2.2 3次元の逆格子	3.2.2 3次元の逆格子点
48	欄外注24 8行目	式(4.5)で示した不確定性関係	式(4.20)で示した不確定性関係
	最下行	不確定性関係が成り立つ	不確定性原理が成り立つ
52	図4.5 縦軸	$\log \tilde{\psi}(p_x, t) ^2$	$ \tilde{\psi}(p_x, t) ^2$
57	式(4.36)の 次の行	と表される。	と表される。ここで、 $\mathbf{r}$ は動径ベクトル、 $\mathbf{p}$ は運動量である。
84	式(6.6)の 次の行	が得られる。	が得られる。ただし、 $S_{21} = \int \phi_2^* \phi_1 d\mathbf{r}$ である。
	式(6.7)の 次の行	$c_1, c_2$ が0でないためには、	$c_1, c_2$ がともに0でないためには、
85	図6.3 縦軸の目盛り	0	$\epsilon_{1s}$
90	6.3.2 項 3行目の式	$V_i = -\frac{Me^2}{2\pi\epsilon_0 a} = 1.43 \times 10^{-18} \text{ J} = 8.92 \text{ eV}$	$V_i = -\frac{Me^2}{2\pi\epsilon_0 a} = -1.43 \times 10^{-18} \text{ J} = -8.92 \text{ eV}$
122	最下行	一方、左辺は	一方、右辺は
147	下から 7行目	$\phi(\mathbf{r})$ はブロッホの定理より $\phi(\mathbf{r}) = e^{i\mathbf{k}\cdot\mathbf{r}} u_{\mathbf{k}}(\mathbf{r})$	$\phi_{\mathbf{k}}(\mathbf{r})$ はブロッホの定理より $\phi_{\mathbf{k}}(\mathbf{r}) = e^{i\mathbf{k}\cdot\mathbf{r}} u_{\mathbf{k}}(\mathbf{r})$
148	式(10.22)	$\phi(\mathbf{r}) = \frac{1}{\sqrt{V}} \sum_{\mathbf{G}_m} C_{\mathbf{G}_m} e^{i(\mathbf{k}+\mathbf{G}_m)\cdot\mathbf{r}}$	$\phi_{\mathbf{k}}(\mathbf{r}) = \frac{1}{\sqrt{V}} \sum_{\mathbf{G}_m} C_{\mathbf{G}_m} e^{i(\mathbf{k}+\mathbf{G}_m)\cdot\mathbf{r}}$
162	図11.4 一番下の図	$m_e$	$m_e^*$
167	図11.10	$I = \int_S \mathbf{j} \cdot d\mathbf{S}$	$I = \int_S \mathbf{j} \cdot d\mathbf{S}$ ( $S$ はベクトル)
251	下から 6行目	半導体の有効質量および誘電率を	半導体の有効質量および比誘電率を
266	下から 9行目	磁化率は $\chi = -1$ となる。	磁化率は $\chi_m = -1$ となる。